

広

報

# しべ

8

1995

No. 342

萌える海と大地 さわやか交流郷



## ◆座談会

「戦後50年を振り返る」

## ◆「ふれあい青空市」にピリオド…

## ◆キャサリンさん、ありがとう (英語指導助手)

## 夏祭りだ！ワッショイ！

夏本番を迎えた7月21日、晴天の中、薫別神社祭が行われ、威勢の良い掛け声とともにみこしが同町内を練り歩きました。

また、薫別音頭にのせて浴衣姿の婦人による踊りの披露もあり、沿道の人たちから大きな拍手が送られ、夏祭りを楽しみました。

本年八月十五日終戦記念日、ちょうど戦後五十年を迎えます。五十年という事で戦争を知らない世代が増え、戦争を体験された方も高齢となり、そのことが風化されつつあります。そこで、悲惨な戦争を二度と繰り返すことなく、平和を願うことから、戦争体験者による座談会「戦後五十年を振り返る」を開きました。



当時の模様を語り合った座談会（7月14日、標津地区生活館）

- 出席者
- ・佐藤勝三さん 新川上町
  - ・田中喜市さん 北標津
  - ・畑中 勇さん 伊茶仁
  - ・河端照子さん 桜木町

当時は兵隊になりたかった

——さっそくですが、戦時中、兵隊に行かれた田中さん、佐藤さん、畑中さんの当時の体験談をお聞かせください。まずは入隊と戦地先についてお伺いします。

田中 当時、国の教育の関係から男の子をば兵隊にやりたいという親心があり、子供にしても兵隊や警察官になりたいと思っていました。

私は昭和十七年一月、現役志願して二十歳で陸軍・千葉東部七十三部隊に入隊。その二カ月後、



兵隊当時（22歳）

・たなか きいち（73）  
昭和17年1月、20歳で陸軍・千葉県東部73（機械科）部隊入隊

入隊、広島県内へ。田中 戦地では、ソ満（旧ソ連と中国）国境の警備に当たり、防空壕を掘ったり大砲の発砲準備などをしていた。

終戦間際の昭和二十八年八月六日だったと思うが、旧ソ連軍が真つ暗やみの午前0時頃、私たち軍隊と民間人が乗っていた走行中の列車めがけて、戦闘機と戦車による砲撃を行った。列車にはガソリンや

ることに驚いたが、幸い命には別条がなく、奇跡的に助かった。のちの八月十五日から旧ソ連軍の捕虜となり、ハバロフスクに連行された。

敵をやらねば  
自分が殺された

佐藤 昭和十九年冬、満州・青島（チンタオ）作戦で「決死隊」に選ばれた。恐いという気持ちを取り除き、「敵をやらねば自分が殺される」との思だった。

# 座談会 「戦後50年を振り返る」

## 二度と繰り返してはならない戦争…戦争体験者が語る生の声

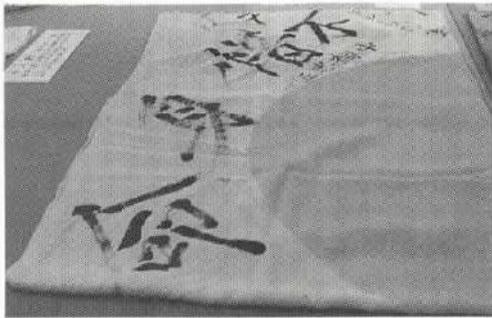
軽油も積んでいたもので、火災も起こり、多数の死者を出した。私は戦車砲の破片を左肩に受けたが、必死に高いがけを登り逃げた。その時、負傷者が叫んでいたが、どうすることもできなかった。気がつくとも傷口から血がかなり出ていた。

二回目の決死隊を望んだ。「今度こそ、死んでやらねば」。だが、またしても助かってしまったという思い。今から思うと変な話だが、当時はそれが普通だった。

畑中 私の入隊する山口県・暁部隊まで汽車で四日かけてようやく到着。途中汽車は人に見られないように「よろい戸」をおろせばよかった。この部隊は初めてのものだったので、偉い人はあまりい

寄せ書き

戦争当時、兵隊に行く人が皆んなに書いてもらい、この日の丸を肩にかけて出発。  
（写真は、ポー川民俗資料館の所蔵。以下関連写真も同館所蔵のもの）



なかったが、満州から来た班長さんらは、すごく元気が良かった。

点呼をとるのに整列すると、何か一つでも気に食わぬことがあれば、全員がたたかれた。入隊間もない頃、一人の隊員（二十一歳位）が兵舎の廊下の窓に立ちながら泣いていた。「故郷に帰りたいかっただろうに、泣きたくなるのもわかるよな」。今でもその人の名前は覚えている…。それを上官に見つかってしまい、全員が整列させられ軍隊の固い皮のスリッパで班長に思い切り頬をたたかれた。

その後、私の口の中が、もそするで、気がつくとも歯が折れていた。そういうことが続いたものだった。

ベニヤ船での

「人間魚雷」

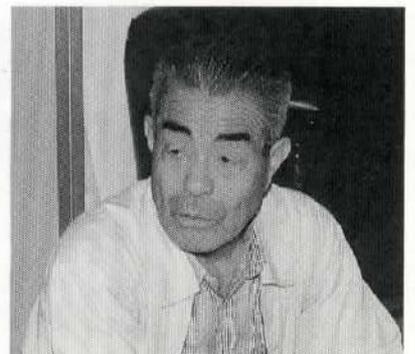
——その後、どちらへ。

畑中 昭和二十年六月、特攻隊要員として広島へ。検査官に「あんた漁師だから、海軍でも陸軍でもない兵科があるから、それでいいか？」と言われ「はい」と答えた。

この特攻隊は、ベニヤ板でつくった一人乗りの磯舟（深さ八〇cm・長さ三・六m、幅一mほど）に乗り、船の両脇には魚雷（長さ三・六m、直径一二cmほど）をかかえるように積み、敵の戦艦めがけて行くものであり、「人間魚雷」とも言われた。日本の本船に約三百人が乗り込み、ある程度の場所まで行き、この辺でと：「相手の船につかれ！」「それ行け！」と言われ、次から次へと送られた。

燃料もわずかしがなく、波があれば沈みやすかっと思つた。私は以前から死ぬ覚悟はできていた。あとは命令を待つばかりだったが、その時、終戦を迎えた。あと三日終戦が遅れていたら死んでいた。

食糧が不足した捕虜生活



・はたなか いさむ (69)

昭和十九年八月、18歳で山口県・晩部隊入隊

——田中さんと佐藤さんは捕虜生活を体験され、大変苦労されたことでしょうかね。

田中 旧ソ連軍の捕虜になり、ハバロフスクなどで四年間生活した。とにかく食べものが不足して、自分たちで野菜をとっては増やして食べていた。一日の食事はパン

（三百g）とスープがでること一回。栄養失調で死んでいった人もいて、皆んな若いのにやせていた。

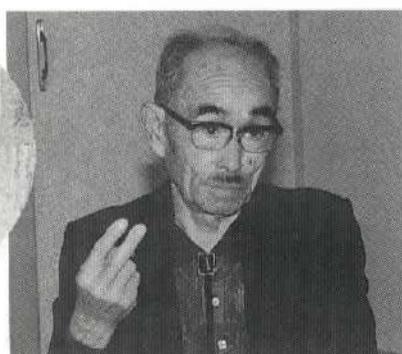
木の下採作業や船舶の作業員をやらされ、「日本に早く帰らず」とよく言われたが、秋になってもだめ、春が来ても稼ぐといった繰り返しで四年間が経ったが実に長く感じた。また、シラミがたかることから日本人は不潔だと言われ、頭や体の毛を剃られた。

佐藤 昭和二十年八月二十九日、新京（中国）についたとたん、旧ソ連軍に武装解除され、三年間捕虜生活を送った。その八月二十九日に割り当ての宿舎について井戸水を飲んだが、どうやら日本軍が撤収する際、赤痢菌をまいて逃げたらしく、かなりの人が死んでいった。私も赤痢にかかり、生死をさまよったが、なんとか助かった。その症状は苦しく

ターツクで、伐採作業や第二シベリヤ鉄道の作業に当たった。気温はマイナス45度にもなり、マイナス35度より寒い時は作業は中止していた。寝具は毛布二、三枚でペチカはあったが、震えながら寝ていた。

最初は、使い殺されると思ったが、捕虜の仕組みがわかるようになってきて、体が違者であればいつか日本に還れると思えるようになった。「早く帰りたい」「帰ったら餅食いたい」と、食べものの話しばかりしていた。

——昭和二十年八月六日、広島に原爆が投下された時、畑中さんは同じ県内の約三十キロ離れた「矢野」にいたそうですが？



・さとう かつぞう (75)

昭和十六年十月、21歳で陸軍・旭川第27連隊入隊

とか助かった。その症状は苦しく一晚に五十、六十回の下痢で物も食べれず、水も飲めず、どれほど体力を消耗したことがか。

畑中 その日の朝は作業に行くのに表で準備していたところ、米軍機B29が上空に。「おい、また来たなあ」：今まで広島に爆弾を落とすことはなかったが、何回も飛来していた。午前八時十五分、「バアーッ」と光ったと思ったら兵舎の窓ガラスが割れた。そして、ものすごい音。最初、燃料タンクがやられたと思った。



兵隊当時 (25歳)

その後、バイカル湖付近のイル

すぐに広島に大八車で向かったが、途中の宇品（うしな）では、苦しみがいている人たちがいっぱいだった。「水をくれ！」、子供、妻、夫の名前を呼び叫ぶ人など、も



・かわばた てるこ (63)

昭和20年7月14、15日、高等科2年の時(13歳)、標津で空襲を体験。

河端 昭和二十年七月十四、十五日の両日に空襲があったと、私は当時、高等科二年(中学二年)十三才でしたが記憶している。

十四日、「日本の飛行機だ」といっているうちに学校めがけて機銃が「ダダダ」ときて、「あー、敵の飛行機だ！防空壕に入れ。私たちは学校のそばにある天皇陛下の御真影を守るため、近くの防空壕に入った。

翌日、十五日の朝、根室で空襲を受けていると聞き、標津の人たちも逃げなくてはと、警報団の指示に従い、今の太平洋レミコンの向かいの山あたりの草むらに市街の人たちは列をつくって入った。

う正気の世界ではなかった。動けない人は既に死んでいた。とにかく生きている人たちを近くの倉庫に収容するのに二日間かかった。そして三日目に広島へ行くと、正に生き地獄とはこのことだと思った。まちの中央に流れる大きな川一面には、人が重なり合うように浮いていた。親子と思われる死体が五人ほどが防火用水にむらがついているほか、バスや電車も満員だったようで、その中で死んでいた。とにかく虫一匹たりと生物は生きていかなかったはず。三日間死体処理に当たった。

標津にも

爆弾投下された

標津にも爆弾が投下されたと聞きましたが、その時のようすは？

河端 教科書は先輩から受け

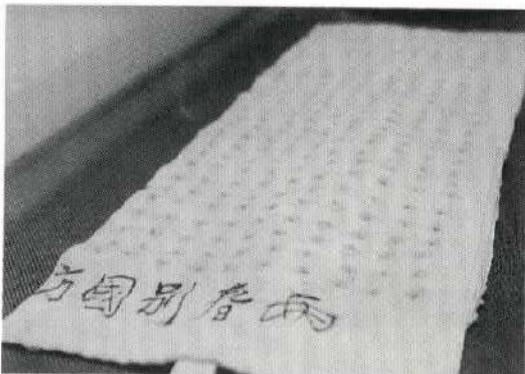
あつて出てみると、当時、藤野缶詰工場ボイラーの煙突に爆弾が落とされ、事務所が焼失したようでした。その当時の学校では？

たが、ほとんど勉強できず、今のサーモンパークより少し川北方向の場所から、柳の木を取りに行っただ。これは防空壕をつくるのに使った。木の角にぶつかって、よくズボンが破れ大変だった。

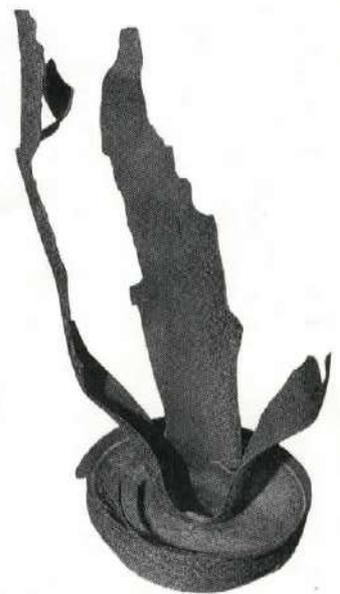
また、棒の先にきりのようなものをつけ、皆んなで並んで走ってきては、わら人形を突き「敵の兵隊さんが来たら刺せ」と言われた。

昭和十六年には大日本国防婦人会が標津にもできたと言いましたが？

千人針 戦争に行く兵隊さんが無事であるようにと願って、女の人が糸で縫った。



河端 「銃後の守り」といって、爆弾を落とされ火災防止のために、「バケツリレー」や兵隊さんが戦地に向かう時に、たすきをかけて、軍



爆弾

昭和20年、標津海岸に落とされたもの。

歌や、千人針、寄せ書きなどで励ましながら見送るほか、戦死した人の遺骨が還ってくると村葬を行い、一生懸命世話をしていたと聞かされています。

残酷な戦争は二度と繰り返してはならない

河端 戦後五十年を振り返ってどうですか？

田中 残酷な戦争は二度と繰り返してはならない。私たちの青春は戦争で終わってしまった。

佐藤 戦後五十年になったけれど、戦争の話しを聞かせてといわれても正直言って、思い出しなくなかったし、語るのも嫌だった。だが、五十年という節目で口を開いたが、入隊からの十年間が、走馬灯のように今も頭を駆けめぐるときもある。あとは余生を楽しく過ごすことだけ。

と、この世から戦争と核兵器はなくすべきだ。 畑中 戦前、戦後を通して生きてきた者として、戦争を知らない若い人たちに言うておきたい。「絶対、戦争だけはやらないこと」。戦争は国と国とのけんか。けんかはよくない。国同士ばかりでなく日本人同士のけんかも、いろいろな意味でやるべきではないと思う。

河端 皆んな兵隊に行ってしまったので、仕方ないけれど今、なんとか果報がありますようにと、祈っている。今の人たちにこんな思いはさせたくない。

戦争で尊い命を奪われた多くの犠牲者にご冥福をお祈りするとともに、私たちは世界の平和を切実に願っています。本日は、ありがとうございます。

この座談会の中で、掲載した内容のほかにも、貴重な話が出ましたが、紙面の都合により割愛したことをご了承ください。



総会であいさつする小田桐町長

## 和やかに「東京標津会」総会

七月二日、第十七回「東京標津会」(鈴木清三会長・会員約三百五十人)総会が、東京都渋谷区の東急文化会館で開かれました。  
会員相互の親睦と郷土「しべつ」との密接な情報交換を行い、本町の発展に寄与することを目的に発足した同会。今回も約百三十人の愛郷者が参集しました。地元から、小田桐町長をはじめ、荒谷町議会議員、漁協、農協、商工会の代表

などの関係者が総会に出席。会場では標津の特産品の販売やサケの新巻、筋子、チーズなどが当たる抽選会も行われ、ふるさと味の味覚を手に懐かしい昔話に花を咲かせていました。

——会員の方にふるさと標津の思い出や標津のまちに期待することなどを聞いてみました。

渡部 弘司さん (56)



—川崎市—  
機械設備会社勤務

### 自然をいつまでも

子どものころ、海や川、山の大自然の中で遊んだことが、今でも記憶によみがえります。やっぱり都会より田舎の方がいいなあ。人と人とのぬくもりがある。年をとると田舎に帰りたいと、つくづく思うようになってきました。標津に期待することは、いつまでも大切な自然を残し、今のままであってほしい。

北島テル子さん (65)



—川崎市—  
マネキン紹介業

### 自慢できる「標津」に

女学校時代(現在の標津高校)、戦時中で援農に行き、飛行機の燃料の油に使う亜麻(アマ科の一年草)づくりに精を出したこと、皆で野付半島のうさぎ狩りに行ったのが思い出。

これからは、もっと発展して自慢できる、ふるさと標津になってほしい。観光地として、サケだけではなく、北方四島返還を兼ねながら「国後島の見えるまち」でもっとPRしてほしい。

太田八十六さん (48)



—千葉県—  
チーズ工場勤務

### 遊んだ思い出...

ベキシリ山を走り回ったり、流水にのって落ちたり、とにかく遊んだ思い出ばかり。中学の時は授業の半分はグラウンドづくりで、生徒全員で踏み固めたり、草むしりをしたものです。

以前に比べると標津もずいぶん変わりましたね。私個人としては、あまり変わってほしくないのです。住んでいる人は、そうは思わないでしょうが...

標津町サケ・ホタテ消費流通対策協議会

## 毎週土曜日は「標津魚の日」

### 今年も8月12日から即売会を実施



本年度の事業計画を決めた実行委員会

標津町サケ・ホタテ消費流通対策協議会(会長・鈴木輝英標津漁協組合長)の本年度第一回実行委員会(戸田雅彦委員長)が六月二十一日、標津漁協で開かれ、昨年度の事業と決算報告、本年度の事業計画案について協議し、承認されました。

同協議会は、標津産のサケやホタテの消費拡大を図るために、漁協、サケ定置部会など漁業関係団体をはじめ、町、商工会、観光協会など各団体が構成され、昨年発足。

本年度の事業計画では、昨年に

引き続き、八月十二日から十二月中旬までの毎週土曜日を「標津魚の日」として町商工会前(予定)で即売会を実施。十月には、しべつあきあじまつり(一日)への出店、中標津町での即売会、札幌市の二条市場まつり、東京の小田急百貨店で開催される「北海道物産大収穫祭」への出店を計画しています。さらに「標津番屋鮭」(六キロ前後の超特大のサケを厳選、町内三十二のサケ番屋に伝わる伝統の仕込みで塩漬にしたもの)の販路拡大にも取り組むなど、消費拡大に向けPRしていきます。

# キャサリンさん、ありがとう

カナダへ帰国

カナダ・バンクーバー市から、町内の中学校の英語指導助手として昨年七月に着任したキャサリン・サルカーズさんがこのほど、一年間の勤務を終えました。

帰国に当たり、キャサリンさんにお話を伺いました。

—— 標津の印象は？

皆さんの親切で互いに助け合い、静かで自然に恵まれ良いまち。ただ、交通機関がなく大きなまちから離れていました。

日本は「ルールが一番」

「人は二番」…

—— カナダと日本の教育の違いは？

日本の先生は、生徒に教えるだ

け。カナダはそれとともに生徒が考える環境をつくる。大切なポイントだけ先生が教え、あとは生徒で新しいものを自分たちで考え出す。カナダでは、その生徒のレベルに合わせて教えているので、退屈させない授業をしている。例えば、一年生でもレベルの高い子は二年生の勉強もできる。日本ではクラス一単位で、どんなレベルの生徒もまとめて教えている。

日本は「ルールが一番」

「人は二番」。確かにルールは大切、でも時にはルールが二番になる場面



キャサリンさんと（左から）長女のシャノンさん、三女のベイリーちゃん、次女のケルシーちゃん

もある。日本では教育方針や規則を変えるのは難しい。カナダはそれが容易にできる。

—— 英語の上達法は？

話す（聞く）のが一番。書くのは「NO!」、コミュニケーションは書くものではありません。

## キャサリンさんから 生徒たちへのメッセージ コミュニケーションで 世界を楽しく

親切にしてください、心から感謝しています。この一年間は、あっという間に過ぎました。ここを去るのはとても悲しい…。でもあなたたちは、私たちをととも楽しくしてくれました。

標津のまちの一番良いところは、住んでいる人々です。一生懸命勉強してくれてありがとう。英語と日本語は、コミュニケーションと同じです。コミュニケーションで私たちは、世界を楽しむことができます。世界の人々と友達になるためには「違い」を探すのではなく「同じ」ものを見つけ出し、共有していくことが大切。

- 自分の気持ちをはっきりさせよう。
- 心を開いて、世界を探そう。
- 一生懸命勉強しよう。
- 勉強は学校ではなく、生きることも勉強です。

これが、私の子どもを連れてきた理由でもあります。バンクーバーに来てください。私も標津に来ます。さよならではありません。また、会いましょう。

## キャサリン先生へ…

(標津中の生徒から)



### 楽しい授業

楽しい授業に感謝しています。先生の授業はわかりやすかったです。先生のことは決して忘れません。お元気で…どうもありがとうございました。

佐々木

孝くん

(1年)

Ms. Catharine,

We are very thankful

for the enjoyable lesson.

Your lesson was very easy to learn.

We really enjoyed your English lesson.

We'll never forget you!

Wish you good luck and good health.

keep as sweet as you are!

Thank you again for everything.



### 生きることも 教えてくれた

先生の授業はすごくハードでした。でもわかるまでずっと教えてくれた。先生が教える時には日本語を使わなかった（それが良かった）。いつも私たちは楽しかった。時にはゲームもしました。どれも楽しかった。先生は「勉強すること」だけでなく「生きること」も教えてくれました。またいつか会いましょう。

村山

大輔くん

(2年)

Catharine's class was very hard, but she gave us lessons until we could understand.

She didn't use Japanese in teaching. (It was good)

Everytime We were very happy.

We occasionally played games.

All game was very enjoyed.

She taught not only "study" but also "live" See you again some day !!



### いつかまた会いたい

キャサリン先生は英語をととてもいねいに教えてくれました。それにわからないところを説明してくれました。私か家庭学習を提出すると、必ず一言書いてくれます。例えば「ベリーナイス」などです。とてもうれしかったです。私の文の誤りを訂正してくれました。とにかくキャサリン先生にはいろいろとお世話になりました。私はキャサリン先生にまたいつか会えたらいいと思います。機会があればまた標津に来てください。

四戸

和歌子さん

(3年)

Thank you so much, Catharine!

Catharine taught English very politely. Beside, she explained that we couldn't understand it.

When I handed in my homework, she was usually writing messages for me.

For example, "very nice" "good work" etc I was very happy, she corrected mistakes in the sentence.

Anyway, thanks for all which you've done for me. I hope you can see us again some day. If you have a chance, please come to Shibetsu.

## 予算確保に向けて 関係機関に陳情

平成八年度の道・国の予算編成時を前にして、このほど町独自の陳情を行いました。

町の主要事業の予算確保などのために毎年行っているもので、七月九日に釧路、七月十二日、十三日に札幌、七月十四日に東京の、それぞれ関係機関に対し陳情を行い、小田桐町長、荒谷町議会議長をはじめとして、笹木副議長、各常任委員長、議会運営委員長が出席。地域高規格道路（標津町、釧路町間）の早期整備をはじめ、町の主要な事業二十二項目について、町が抱える問題や課題を説明し、平成八年度の予算確保などの支援をお願いしました。



## 緑の宅配便 苗木をプレゼント

広く地域住民に緑の大切さと森林の役割の重要性を理解してもらおうと六月二十日、標津宮林署と町は、新婚カップルと新生児誕生世帯の希望者五十三世帯に「緑の宅配便」として苗木をプレゼントしました。

新川上町の今茂臣さん方の庭先には、中野渡署長や小田桐町長が訪れ、今さんの長女帆奈美ちゃん（三カ月）をはじめ家族が見守る中、「帆奈美ちゃんも木のように、すくすくと大きく育ってね」との願いを込めフジザクラを一株ずつ庭に植えられました。

## 第五期くらしの モニタースタート

今回で五期目を迎える標津町くらしのモニターとして、七月十日、町内の主婦十三人に委嘱状が交付されました。くらしのモニターは、町内の主婦を対象として、町民の暮らしに関して広く意見や要望を聞き、町政の改善と向上を目指して昭和六十年に設置され、任期は二年で、町からのアンケート調査への回答、意見や要望を定期的または随時文章で提出、施設見学や議会の傍聴などが主な活動内容。

小田桐町長から委嘱状が交付されたあと、現在、町が進めている生涯学習センターや防災についての事業、ストーリーのあるまちづくりなどの主要プロジェクトについて説明があり、活発な意見交換が行われました。



## 生徒会とPTAの 懇談会

— 標津中 —

親子のコミュニケーションを深めようと、七月十五日、標津中学校（山西幸三校長）で、生徒会とPTAの父母との懇談会が開かれました。

懇談会では、子供と親が互いに相手に望むことやいじめ問題などについてざっくばらんに意見を交換しました。

まず、父母から「ボランティア活動についてどのように心がけているのか」という質問。生徒から

は「はまなす苑などにボランティアとして慰問するだけではなく、普段気がついたら進んで空缶などを拾うような心がけている」。

また、生徒側から父母に対して「今と昔では時代が違うので『昔はこうだった』といわれても困る」「親がなんでも決めないで自分たちの考えをもっと聞いてほしい」などと注文。これに対して父母は「大人も中学生の頃、同じくそう思っていたが、今までの経験から昔良かったことは今にも活かすべきであり、せめて昔そういう苦労があったということだけは知っておいてもらいたい」と意見。

一方、いじめ問題については生徒側から父母に対して意見を求めると「子供がいじめについて何も話さないのが、実態がわからない。なんでも協力したいので積極的に話してほしい」と要望。双方とも「いじめの解決にはまず仲間の協力が必要」との意見で一致。さらに、いじめの実態把握について生徒会、PTA双方とも近く調査を始める方向になりました。

最後に小川悠治PTA会長が「生徒会、PTA、学校と互いに協力し合い、協議してより良い新しいものをつくりたい」と締めくくりました。



## 仮装パレードで にぎわう—標高祭—



標津高校（内田正明校長）の学校祭が十六、十七の両日開かれ、同祭の幕開け行事として十六日、仮装パレードが行われ、子供アニメ大集合、忍者、ヨサコイソーラン踊りなど、凝った装いで市街を練り歩き、沿道の町民から盛んな拍手を浴びていました。

## ハッスルプレー続出

—町民300歳ソフト—

北海道スポーツ百選に選ばれている第十六回町民三百歳ソフトボール大会（町教委主催）が、七月二日、町営球場など九会場で行われ熱戦を繰り広げました。

この大会は、女性を一人以上加え、九人の合計年齢が三百歳以上というユニークなルールを用いて行われるソフトボール大会。

試合は二ブロックに分かれ、合計二十七チームが参加。出場選手たちは仲間の声援を受けてハッスルプレーを繰り広げていました。

## 親睦パチンコ大会 出玉にニッコリ



標津町体育協会（竹野武美会長）主催による第一回団体協まつりが、七月十六日に開催されました。

この催しは同体協加盟の各団体相互の親睦を図ることを目的に今年度初めて開催されたもの。午前中は町内でパークゴルフとソフトパレーボールが行われ、多くの町民がこれらのスポーツを楽しみ、また、午後五時からは農村環境改善センターに会場を移し、ビールパーティーが開かれ、各団体加盟者のほか一般町民も含め、約五百人が参加しました。

参加した町民たちはビールを手それぞれスポーツ談議に花を咲かせていました。

七月十四日、標津町社会福祉協議会（西山吉二会長）主催の親睦パチンコ大会が、標津娯楽センターで行われました。

この大会は、同センターの遠藤稔社長のご好意によりお年寄りや身障者などの方々を対象に相互の親睦を図ることを目的に、今年で十五回目。参加した七十八人の中には、パチンコが始めての人もいて「こんなに出るとおもしろいね」といった笑いの声も。

優勝は、出玉一万四千四百六十八発の伴甲子さん（78）。

参加者には、ラッキー賞や特別賞など数多くの賞品も用意され、楽しい一日を過ごしました。

## 箭浪さんが町に寄付

前町議会議員の箭浪昇さん

（68歳・桜木町）



がこのほど、議員生活四十年にわたり「町や町民の方々にお世

話になりました」と、町体育文化振興基金に十万円を寄付されました。

標津町森林組合川北山菜加工場（笠井優場長）では、今最盛期を迎え、十人の女工さんたちがふきの皮むきなどの作業に追われています。

今年六月十日から作業が始まり、期間中はふき百トン、うど三トンを目標に生産が続けられています。

原料の仕入先の多くは町内の人達からですが、最近では羅臼町、厚岸町などの山菜取りの愛好家からの仕入れも増えているそうです。

ふきは一キロ当たり三十五円（七十五センチ以上）で買い取りしています。

同加工場は七月下旬まで操業し、塩蔵したふき、うどなどが占冠や陸別の山菜工場に出荷されます。

## ふきの加工真っ盛り

—川北山菜加工場—





「漁港の日」に漁港  
清掃——漁協婦人部——

七月十日、標津漁協婦人部（新川洋子部長）が、「漁港の日」（道漁港協会が定めている）にちなんで、標津漁港で清掃活動を行いました。

この奉仕活動は、環境美化とごみによる事故の防止などを目的に毎年実施しているものです。

今回は部員四十人が参加し、漁港内の空き缶や古雑誌、流木など大小のごみを熱心に拾い集めました。

弥栄町内会で  
遊園地整備

六月十八日、弥栄町内会（今泉順一会長）による同町内会遊園地の整備が行われました。

作業は約五十人が参加して



行われ、また、重機の提供もあり、遊園地は見違えるほどきれいになりました。遊園地の周辺には花壇も設置され、今泉会長は「これからはきれいな花も咲き、道行く人達の心をなごませるような遊園地にしよう」と、町内会のみならず心がけています」と話してくれました。

「矢嶋家資料展」

——ポー川史跡自然公園——

標津で明治十年代から商店を営んできた矢嶋家の資料を展示する「よみがえる明治・大正・昭和・矢嶋家資料展」が、七月一日から二十三日までポー川史跡



自然公園で開催されました。

展示されたのは、明治初期の開拓史関係文書、標津村文書、衣食住などの用具、アイヌ文化資料、ポスター類など百五十点。会場を訪れた人は、町の歴史を細く資料ひとつひとつに足を止め、熱心に見入っていました。

公共施設に花の苗

——北標津小中学校——



六月二十一日、北標津小中学校（名木野宏夫校長）の生徒と先生十五人が、役場庁舎前と総合体育館前の花壇に花の苗約四百本を植えました。

この花の苗の植栽は、同校が十年ほど前から実施しており、今回植えた苗は、マリーゴールド、サルビアの二種類の花。生徒たちが三月下旬から同校のビニールハウスで大切に育てたものです。

花は今がちょうど見ごろで、人々の目を楽しませていきます。

教職員による救急講習会

——標津高校——

いざという時に備えようと標津消防署の協力により、標津高等学校（内田政明校長）教職員による今年で二回目となる救急講習会が先生達の研修の一環として六月二十一日、同校で開かれました。

タミー人形を使い、消防職員から心肺蘇生法（人工呼吸・心臓マッサージ）の実技を真剣に教わっていました。

管内の障害者が交流深める

流深める

根室管内四町の障害児学級で学ぶ小中学生が参加して、標津町障害児教育協議会主催の四町交流会が農村環境改善センターで開催されました。合唱、グループごとに分かれて手づくり名刺交換のほか、サーモン科学館の見学など交流を深めました。



「イトウ」

標津沖で捕獲



本道では川など淡水だけに生息していると考えられていたイトウが七月三日、標津沖の定置網にかかり、生きてまます捕獲されました。

このイトウを受け取ったサーモン科学館小宮山英重主任学芸員は、「イトウの生態は知られていないことが多く、解剖してどんなものを食べているのかなどを調べ、学術的に役立てたい」と話していました。

# 七年間、ご苦労さまでした

# 町民に「ふれあい青空市」に 親しまれた

# ピリオド……

## 実行委員会のメンバーの声……

町民に親しまれて七年……。『ふれあい青空市』が六月九日を最後に惜しまれながら終了しました。

地元の新鮮な魚、野菜を町民に提供しようと、町づくりグループ「野っ太郎（やったろう）さわやか集団しべつ21」（定田哲也代表）が主体となり、昭和六十三年に青空市実行委員会を結成。町、町商工会、漁協、農協の後援で、毎年六月から十二月まで月一回、青空市を開いてきました。

今回で終了となったのは、七年前には三十人もいた会員が仕事などの都合で今では十人ほどに減った上、売り上げの伸び悩みなどが要因だといえます。

七年間、青空市を開催してきたメンバーの皆さんと、毎回足を運んでくれた町民に話しを聞きました。



ピリオドを打った青空市（6月9日）

「せっかく七年も続けてきたので、やめるのが惜しい。『野っ太郎さん』にはお世話になった。今は感傷的な気持ち。『地元の魚が買えない。こんな状況はおかしい！』とのことからスタート。しかし、年々売り上げが落ちてきた。中標津の大型店の安売り、朝市も始まったことなども要因。ただ、愛好者で車のない、お年寄りのために少しでも経費をかけないで、続けようと努力したが……、魚と野菜が安定供給できれば可能だったかもしれない。」

「朝市のねらいは良かった。今日で灯が消えることはさびしい。今年春に数人から『今年も青空市やるんでしょ』と電話があり、心苦しかった。ただこのまま継続するととなると、いろいろと問題がある。……」

「六月九日、青空市終了後、実行委員会のメンバーに『ご苦労様でした』とあいさつする定田代表



「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

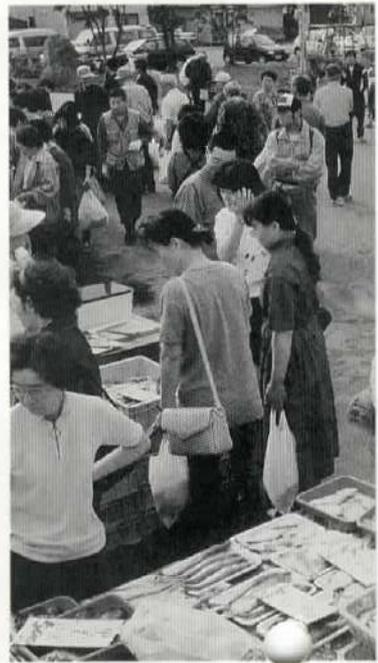
「……」

「……」

「……」

「……」

「……」



った。

——正直言って大変だったことも事実。魚は前日一日と当日朝四時に起きて準備、そして売るのはわずか十五分から三十分ほど。その後、魚の後始末でも、お客さんの顔を見ると吹っ切れた。たぐさ

んの人の前で売る、普段味わうことのできないこの朝市の売り方が好きだった。商人はもうけだと言いが、ただ物売るだけではなく、町民との心のつながり、人と仲間という大切なことを教わったよ

### 後援者などの声：

漁協のPRにもなった



柴田 輝美さん  
(48)  
標津漁協

正直言って大変でしたが、お客さんが喜んでくれたのでうれしい。漁協のPRにもなったはず。例えば、鮭のハラスがすぐ売れるようになりました。いつかまた、このような機会があれば、ぜひ参加したいですね。

できれば  
続けたかった



中川洋三郎さん  
(44)  
JA標津

できれば続けられなかったのかなあ。採算を考えるとできませんでした。日曜日の朝早いものにもかかわらず、うちの職員は嫌な顔

もせず協力してくれました。町内の人が一体となって売ることはありませんでしたので、良いことだと思えました。農協として町民に少しでも還元できたのではないかな。農協のPRにもつながりました。

楽しく  
やれました



犬童 正さん  
(68)  
川北

青空市をやることは良いことですね。ボランティアでお手伝いしてきましたが、知らない町民の皆さんと顔見知りになり、喜んでくれたことがうれしかった。大変だったとは思っていません。多くの皆さんが来ると思えばファイトが湧き、楽しくやらせてもらいました。

人が好き  
だから



澤田フジエさん  
(66)  
羅臼町・水産会社

羅臼からこの朝市に参加させていただき三年目。今日はカレイが八百枚ほど売れたよ。出面や乾燥機代などを差し引くと、もうけはあります。人とのふれあいと自分の品物を知ってもらうために参加。朝市は「人情」。誰もおもしろくなかったら来ないよ。人が好きだから。朝市の前日、夜遅くまで準備して当日朝五時に起きて羅臼を出発。標津の人は皆んない人ばかり。すっかり仲よくなっ

### 町民の声：

人に会え楽しかった

毎回楽しみにしていました。

新鮮な魚と野菜が並び、活気があり良かったですね。普段、家の中にいることが多いので、この朝市ではいろいろな人に会えるので楽しみにしていました。今回で最後になるのはとても残念。主催者の皆さん、本当にご苦労様でした。

——本田カズ子さん(63)曙町——

意義ある「朝市」

主催者側は大変だったと思いますが、こういった催しはすごく意義のあること。川北からわざわざ井関商店や農協が来て、参加していることが素晴らしい。この朝市は最後となったが、これとは別に、魚の取れる時期に生きのよいものを町民に提供してほしい。

——大沼幸一さん(72)本町——

主催者に感謝

七年間、毎回来ていましたよ。主催者の皆さんは、町民のために頑張ってくれましたね。感謝

しています。いろいろな事情でやめることは仕方ないと思いますが、また、いつか再開させてほしいと願っています。

——田口チヨさん(74)緑町——

やめるのが惜しい

新鮮で安い魚や野菜が買えて助かりました。毎月一回の楽しみだったので、さびしいですね。やめるのが惜しい…。

——稲井国夫さん(65)望ヶ丘町——

もっと続けられれば

さびしいですね。もっと続けられればと思います。標津は海のまちなのに新鮮な魚を買える所がなかったので、この朝市はすごく良かったです。

——岳田淑子さん(37)若草町——

別な形での開催を

漁業のまちなのに魚屋さんがないので、こういう意味で朝市は大事。うちは酪農家で魚はなかなか手に入りません。年配になると魚がほしくなります。今後は別な形で実施してほしいですね。今回で最後…名残惜しいです。

——川瀬ミサヲさん(66)古多棟——

# みんなの広場

皆さんの声を—  
このコーナーに  
お寄せください

時事 川柳

## 地震による火災に 備え、消火器はど こで購入するの？

**Q** 昨年十月の東方沖地震以来、家具を固定するな

ど、サイレンにも敏感になりました。もちろんいまでも時々起こる小さな地震にもですが…。そこで地震による火災に備えてというこ  
とで、「フッ」と思いました。私は  
公営住宅に住んでいるのですが、  
以前、洗濯の物干し台のように消  
火器は付属品のようについてい  
いのですか？また、付いていな  
いとすれば、どこで購入できるの  
ですか？さらに消火器の定期検査は  
どうしたら良いのか。できれば、  
それぞれの価格も教えてください。

(匿名希望)

生命の証(あかし) 呼吸を 発見し  
世は進む 朝令暮改 という味方  
湯あがりの 浴衣(ゆかた)くすれに ちよつと惚れ  
降格に 開き直つて 見たものの  
忌まわしい 歴史はとあく 五十年  
波の音 なわばり競う ゴメカラス  
露天風呂 ロマンが炎えて 風さやか  
赤提灯 くぐるのれんに みるロマン  
肩上げ着 お婆ちゃん出番 まつりの夜  
前庭の 花は晴雨の カケをさし  
ごみ拾い 捨てる心が 気にかかる  
わらび取り 自然のめぐみ 手にうけて  
雨乞いの 雨庭木も隠居も 流される  
牛が草食うから 農夫飯食える  
棺桶と 言つたあの世の マイホーム  
花嫁を 家族と知らぬ ポチが吠え  
バックして ロール牧草 すまし顔  
麦わら君 SUNSUNテート 子等の夏  
聴診器 心のひたを ちよつとなで  
ジヨキング 体重計も 仲が良い  
野茂投手 今じゃメジャーの NOMOとなり

布施惣一郎  
" "  
" "  
戸村 寿生  
" "  
" "  
" "  
" "  
今泉 慎子  
" "  
" "  
太田 明人  
" "  
" "  
岡部 清治  
" "  
" "  
木枯紋次郎

## A

公営住宅には消火器は  
備え付けておりません。  
消火器の購入先ですが、町内のガ  
ソリンスタンドや燃料商会で扱っ  
ています。価格は一基七千円(消  
火剤1kg)から二万五千円(同剤  
六kg)の六種類ほどがあり、一般  
家庭で最も主流となっているのは、  
一万七千円程度の十型(同剤三・五  
kg) 消防署の調査結果より(注  
分注意し、火災から人や住宅を守

**◆税金**  
ひとくま(毛)

相続や遺贈(遺言によって財  
産を譲ること)によって、亡く  
なった人(被相続人)の財産を  
もらった人には相続税がかかります。

**相続税の仕組み**  
相続税は「正味の遺産額」  
が、「基礎控除額」を越える  
場合に、その超える額に対  
して課税されます。つま  
り、正味の遺産額が基礎控  
除額の範囲内であれば、相  
続税はかかりません。

・基礎控除額  
基礎控除額は、5,000万円  
に法定相続人一人当たり1、  
000万円を加算した額です。

・正味の遺産額  
被相続人の遺産総額から非課  
税財産、被相続人の債務や葬式  
費用を差し引いたものをい  
ます。

## 財産を相続したとき

非課税財産とは、次のような  
ものです。

①墓所、仏壇、祭具など  
②国や地方公共団体、特定の公  
益法人に寄付した財産  
③生命保険金のうち次の金  
額まで  
500万×法定相続人の  
数  
④死亡退職金のうち次の金  
額まで  
500万円×法定相続人  
の数

**相続税の計算**  
まず、正味の遺産額から基礎  
控除額を差し引いて、課税遺産  
総額を計算します。  
次に、課税総額を法定相続ど  
おりに分けたものとして、各法  
定相続人別に税額を計算。この  
税額を合計したものが相続税の  
総額です。この相続税の総額を  
各相続人や受遺者が実際に取得  
した正味の遺産額の割合に応じ  
てあふ分した額が各人の相続税  
額です。

☆詳しくは、根室税務署 ☎  
01532-33261へ。

(標準消防署)

宇佐美(淳一)さんちの  
はやと  
逸登くん (H6.7.24生)

曙町 ①



	身長	体重
★生まれた時…	49.5cm	2.840g
★今では……	71.5cm	10.0kg



お母さん  
からの  
メッセージ

三日前から歩き出した「はやと」は、とにかく元気で、暴れ回っています。大きくなっても、自由にのびのびとたくましく育ててほしいですネ。

新町民に  
スポット

標津営林署  
峰浜森林事務所

佐々木 謙さん



「環境にやさしい  
林野行政を」

「森林をこよなく愛していたので、これがかきかけで林野庁に入りました」と話すのは、今年四月に林野庁から標津営林署峰浜森林事務所森林官として出向、新町民となった佐々木謙さん(28)。

標津の第一印象は、「生まれて初めての北海道。とにかく広大な大地にびっくり。国後島が目の前に

人々(環境)づくりについて語りた」と意欲的。「ただ木を見るだけではな

く、そこに住む鳥や昆虫、動物などを含めた、トータル的な森林を把握したうえで、行政マンとしてやっていきたい」「環境にやさしい林野行政を目指したい」と力説する。

町民の皆さんへひとこと「森林のことで聞きたいことがあれば、気軽に声をかけてください。」

趣味はフォークギター演奏とテニス。

昭和四十一年十月二十九日、東京生まれ、宇都宮大学卒、独身。両親と妹さん(大学生)は郷里、東京に在住。

仕事は、古多様から羅臼町峰浜にかけての約2万ヘクタールの広大な森林の現場管理で具体的には木の収穫調査や造林事業の実施。「現場の仕事は初めてで、笹をこいだり急な斜面を登ったりと体力

に見えて感激、こんなに近くにあるとは…」。

また、せっかくなので標津にきたのだから、「漁業や酪農についていろいろと学びたい」「一人でも多くの人々とふれあい、地域の

ポー川公園の植物を  
説明します



吉田玲子説明員  
(8月13日まで)

ポー川史跡自然公園の植物の説明員として張り切っているのは吉田玲子さん(札幌市・23才)。「生まれも育ちも日高の山奥、自然に囲まれてのんびりと生活してきました。自然の雄大さ、美しさ、そして厳しさなど、多くの人に伝えていきたいです」

現在マツキー総合学園・日本動物植物専門学院の学生。ネイチャーゲーム初級指導員。

「親切を  
フレッシュユさん  
モットーに」

平野 みゆきさん  
(23)  
=株北海ケミカル勤務=

「取引先の大手商社マンが来るので、すごく緊張します。お客さまには親切をモットーに心掛けています」と笑顔で話す平野さん。

昨年二月、同社に入社し、仕事は一般事務と製品分析。「仕事はだいぶ慣れました。会社の皆さんも良くしてくれ働きやすい職場です」。

趣味は旅行、「友達と出掛けるのが一番の楽しみなんです。夏休みはどこに行こうかしら」と、計画中とか。



# 役 場

☎ 2 - 2131 (代表)

込みの者または高等学校卒業と同等と認められる者。

- 試験日 大学校 11月4日・5日  
学 校 10月1日
- 受付期間 大学校 8月31日～9月12日  
学 校 8月21日～9月14日

★お問い合わせは、羅臼海上保安署 (☎ 01538-7-3999) まで。

## 北海道グルメ会 第8回会員

1年間四季を通じてふるさとの味を楽しみませんか。郵便局では、北海道グルメ会第8回会員を募集しています。毎月1回産地直送による「ふるさと便」を、真心込めてお届けします。

### スポーツ

## ☆8月のスポーツ☆

4日(金)

▷第5回町長杯争奪ゲートボール大会  
[9時～川北多目的広場]

12日(土)

▷全道少年野球新人戦町内予選会  
[9時～町営球場]

20日(日)

▷第4回町民パークゴルフ大会  
[9時～望ヶ丘パークゴルフ場]

23日(水)～9月8日(金)

▷子供水泳教室(毎週水・金)  
[19時～プール]

25日(金)～29日(火)

▷北海道自動車短期大学剣道部合宿  
[～鳩ヶ丘体育館]

26日(水)～9月1日(金)

▷北海道女子短期大学バレーボール部合宿  
[～総合体育館]

27日(木)

▷バレーボール実技講習会  
[19時～総合体育館]

28日(金)

▷ソフトバレーボール実技講習会  
[19時～総合体育館]

## 健康相談・健診日程表

〈8月分〉 ※農改センター…  
農村環境改善センターの略

### 乳幼児

#### ■乳児検診

29日(火)  
[13時～13時30分/役場2F集会室]

#### ■乳幼児健診

17日(木)〈川北〉  
[13時30分～14時30分/川北公民館]

※4・7・10・13カ月児対象

21日(火)〈標津〉  
[9時30分～10時30分・13時30分～14時30分/農改センター]

※午前の部 10・13カ月児、午後の部  
4・7カ月児対象

#### ■離乳食教室

10日(木)  
[13時30分/役場2F集会室]

#### ■1才6カ月検診

29日(火)  
[9時～10時/役場2F集会室]

### ■歯ピカ教室

7日(月)・8日(火)  
[9時30分～10時30分、13時30分～14時30分/農改センター]

### 成人

#### ■一般健康相談

7日(月)  
[13時30分～15時/茶志骨パイロット会館]

17日(木)  
[10時～11時30分/川北公民館]

25日(金)  
[13時～16時/役場相談室]

#### ■糖尿病健康相談(予約制)

16日(水)  
[10時～16時/役場相談室]

※8月の乳幼児検診の日程が変更になりました(標津地区のみ)。

変更前 8月15日(火)

変更後 8月21日(月)

★お問い合わせは、役場福祉保健課☎内線129・131・138へ。

## ごみの収集日

曜日	一般廃棄物収集区域 (祭日は休みです)〈有料〉	不燃物収集日 (無料)
月・木	新川上町・若草町・川上町・栄町・ 緑町・弥栄町・曙町	8月10日・8月24日 9月7日 (木)
火・金	本町・鳩ヶ丘町・双葉町・望ヶ丘町・ 桜木町・住吉町・東浜町	8月11日・8月25日 9月8日 (金)
水・土	川北市街・伊茶仁・忠類・浜古多糠・ 薫別・崎無異・古多糠	8月9日・8月23日 9月6日 (水)

★ごみは指定された日に指定された場所へきちんと出しましょう。

## 国民年金

### 国民年金は将来の たくわえです

～みんなが加入、みんなで支える

#### 国民年金シリーズ②～

国民年金は加入者の将来の年金給付を大きな柱として運営されておりますが、その他にも全国各地の市町村で年金積立による融資還元事業が行われています。

標津町では、平成6年度において町営スケートリンク整備事業及び町立病院新築事業で融資を受けています。

同融資も一定の保険料の収納率を達成して初めて可能となり、みなさんの保険料納付がまちづくりに大きく寄与するといえます。

国民年金は将来のたくわえとなるものです。忘れずに納めましょう。

★年金に関する相談・お問い合わせは、役場住民課国民年金係（☎内線130）まで。

## 金婚式

### 金婚式を迎えられるご夫婦に 記念品を贈呈します

町では、金婚式（結婚50年）を迎えるご夫婦にお祝いの記念品を贈呈します。

次に該当される方は、8月30日までにご連絡願います。

#### ■対象者

昭和26年1月～12月までの間に結婚され、夫婦そろって健在な方。

★連絡先は、役場福祉保健課社会福祉係（☎内線137）まで。

## 終戦引揚者

### 終戦当時の 引揚者の方々へ

～通貨・証券などをお返ししています～

税関ではお預りしている次の通貨・証券などをお返ししています。

■終戦後、外地から引き揚げてこられた

方が、上陸港の税関、海運局に預けられた通貨・証券など

■外地の集結地において総領事館などに預けられた証券のうち、日本に送り返されたもの

返還の申し出はご本人ばかりでなくご家族の方でも結構です。

★お問い合わせは上陸地を所轄する税関又は根室税関支署（☎01532-3-2001）まで。

## 人権擁護

### 「子どもの人権専門委員 制度」が設置されました

いじめ・体罰・不登校児問題など、子どもをめぐる人権問題が大きな社会問題となっています。

そこで、釧路人権擁護委員会連合会では子どもをめぐる人権問題に適切に対処するため、人権擁護委員の中から、子どもの人権問題を主体的・重点的に取扱う「子どもの人権専門委員」を設置し、「子どもの人権相談」「子どもの人権110番（☎0154-42-9110）」の開設、また、地域住民・子ども及びその保護を対象とした講演会・座談会など、次代を担う子どもの人権を積極的に擁護することとしました。

★子どもの人権についての相談・お問い合わせは、釧路人権擁護委員根室協議会（子どもの人権専門委員）伊藤正彦氏（☎01532-6-2216）まで。

## 統計調査

### 国勢調査に ご協力お願いします

10月1日、全国一斉に5年に一度の国勢調査が行われます。

9月下旬から調査員が皆様のお宅に調査票の記入のお願いに伺いますので、ご協力をお願いします。

★お問い合わせは、役場広報統計係（☎内線110）まで。

## 防災

### 花火を行う際の注意事項

花火をする時には、次のことについて注意してください。

- 周囲に民家や燃えやすい物がないことを確認する
- あらかじめ消火用の水バケツを用意してください
- 使用後の花火は水につけて完全に消火してください
- 必ず大人が付き添って行ってください
- 後始末は確実に行ってください

—標津消防署—

## 募集

### サクラマス産卵行動観察会

- 日 時 9月3日（日）10時～15時
- 場 所 忠類川金山付近
- 内 容 サクラマスの産卵場所と産卵行動の観察
- 募集人員 20人
- 参加料 無料
- 持参するもの  
昼食、長靴又は胴付き長靴、  
双眼鏡
- 申し込み 8月25日まで（ハガキまたはファックスにより、名前、住所、電話番号を記入し申し込みしてください）。

★申し込み及び問い合わせは、サーモン科学館（☎2-1141・FAX2-1112）まで。

### 平成7年度 海上保安大学校・学校学生

■受験資格 昭和47年4月2日（大学校学生は昭和50年4月2日）以降に生まれた者で高等学校を卒業した者及び平成7年3月までに高等学校を卒業見



売っている切り身を見るのが普通でした。一匹のまま見ることはめったになく、ましてそれが泳いでいるのが見られると思うと、とても楽しみでした。

実際、秋になる

私は昨年の四月に石狩の当別町という所から薫別小中学校に赴任してきました。早いものであれからもう一年余りがたちました。

と薫別川には、たくさんのサケがのぼってきて、想像よりも大きなサケだったのでとても驚き、また感動しました。



上田 友美さん (薫別)  
=薫別小中学校・教諭=

## 『薫別のまちに来て』

食べたことのない料理もずいぶん食べました。チャンチャン焼きは実家に帰って教えると、「おいしい」と大喜びです。うにはトロっ

で「すてきななあ」といつも感じます。近頃は、近所付き合いが少なく、お隣りさんと話したことがないなど、世間一般ではよく聞きます。

次「まちの声」は、川北桜ヶ丘町の佐藤泳子さんです。

人のうごき  
平成7年7月1日現在  
( )は前月比  
人口 6,822人 (+11)  
男 3,308人 (+6)  
女 3,514人 (+5)  
世帯数 2,329世帯(+6)

町内の交通事故  
7月 ( )は累計  
人身事故 1件 (6件)  
負傷者 1人 (9人)  
死亡者 0人 (0人)  
物損事故 20件 (98件)  
死亡事故ゼロの日  
212日 (7/15現在)

## 戸籍の窓口から

(6月11日~7月10日届出分)

お誕生おめでとう

おなまえ	住所	保護者
石橋 昌宗くん	本町	石橋 昌幸・貞子
梅木 智哉くん	薫別	梅木 雅則・淳子

ご結婚おめでとう

夫の氏名	妻の氏名	住所
西本 祐幸さん	横山 千春さん	緑町
里館 正人さん	星野ひとみさん	曙町
佐々木康人さん	館山 知恵さん	栄町
笹原 伸夫さん	溝口紀代美さん	桜木町
波越 勝美さん	西丸まゆみさん	双葉町
山本 英司さん	羽生恵子さん	寿町
桑木 基靖さん	天内千秋さん	緑町
太田 明人さん	ヒンピサオ・ルナ・マリテスさん	茶志骨

## 編集のまど

▷先月、全道各地から広報マンが集う広報広聴研究会が厚岸町で開かれ、参加してきました。全国でもトップレベルの市町村も参加し、広報紙づくりに対する「情熱」にただ驚き、「みんなそれぞれ、がんばっているんだな」「よし、おれも負けないぞ!」と良い刺激を受け、さらにファイトが湧いてきました(厚岸町さん、ありがとう)。

▷今月号では、座談会「戦後50年を振り返る」の記事に挑戦。でも甘くなかった…。延々と三時間余りにも及び「さあ、まとめた」と机に向かうが時間はいつも通りに待たなし。時間をかけて良いものをつくりたかった。協力してくれた出席者に申し訳ないと思っています。(ひ)